



未来へつなごう  
元気な森林づくり

特定非営利活動法人

こが里山を守る会

# 1 里山の主な樹木

## コナラ

落葉広葉樹

小楯 ナナ科コナラ属  
別称ナラ 別名ハハソ **縦・裂**  
*Quercus serrata*



葉先に近い方で幅広い。  
8-14cm



【樹皮】縦にはっきりと裂け、裂け目の間には平滑面が残る。裂けた部分が黒く、平滑面が白っぽいので、白黒のしま模様に見えることが多い。老木では平滑面が減って裂け目も深くなる。【樹形】不ぞろい。大木になる。樹高20-30m。【分布】北海道~九州。身近な雑木林に最もふつう。【利用】薪炭材、シイタケ原木、器具材等。

## クヌギ

楡、桐、樺 ナナ科コナラ属 **縦・裂**  
*Quercus acutissima*



鋸歯の先は褐色。  
11-20cm



【樹皮】縦に深く裂け、裂け目の間に平滑面は残らず、その断面は山形となる。裂け目の底部は褐色を帯びる。老木では裂け目がつまってきたりしてコナラと紛らわしいことも。【樹形】やや縦長の樹形。樹高20m前後。【分布】本州~九州。雑木林の代表種。【利用】シイタケ原木、薪炭材等。樹皮は染料。樹液はカブトやクワガタがよく集まる。

## ヒノキ

楡、樺 ヒノキ科ヒノキ属 **縦・裂**  
*Chamaecyparis obtusa*



葉裏の気孔線はY字形。  
2-3mm



【樹皮】スギより多少赤みの強い茶色で、縦にやや粗く裂ける。その裂け目はスギより広く、切れ端を引くと長くつながってはがれやすい。本種に限らず、環境によっては樹皮表面が灰色っぽくなる(右写真)。【樹形】樹高30m前後。【分布】東北部~九州。各地に植林。公園樹。【利用】建築材など多様な用途に最高品質。樹皮は樹皮炭等。

## スギ

杉 スギ科スギ属 **縦・裂**  
*Cryptomeria japonica*



葉はカマ形で、枝にらせん状につく。  
1-2cm



【樹皮】赤みを帯びた茶色で、繊維状に縦に細かく裂ける。ヒノキと異なり、樹皮は幹に密着してはがれにくい。青白い粉状の地衣類が散らばるようにつくことも多い(右写真)。老木は樹皮が厚くなる。【樹形】樹高30-50m。【分布】本州~九州。各地に植林。【利用】建築材など多様な用途に最も一般的。樹皮は屋根茸等。葉は線香や燃料。

## シラカシ

白楡 ナナ科コナラ属 **平滑**  
別称カシ *Quercus myrsinifolia*



よく似たウラジロガシは裏面が粉白色。  
7-12cm



【樹皮】暗い灰色で平滑。皮目が縦に連なったり、ごく浅い裂け目が入ることも多い。カシ類の樹皮は、しばしば全面が荒れて著しくざらつくことがあるが、これはカイガラムシの影響(p.4参照)。【樹形】樹高20m前後。【分布】東北部~九州。関東に多い。庭木、公園樹。【利用】農耕具や大工道具の柄、器具材、船舶材、薪炭材等。

## アカマツ

赤松 マツ科マツ属 **網・裂**  
別名メマツ 別称マツ *Pinus densiflora*



触っても痛くない。  
7-12cm



【樹皮】名の通り赤みを帯びることが多い。特に成木では幹の中~上部の樹皮がはげて赤くなり、よく目立つ。根元の樹皮は老木ほど網目状によく裂け、クロマツにもよく似ている。【樹形】幹は曲がりやすい。樹高20-30m。【分布】北海道~九州のやせ地。植林、庭木。【利用】建築材、焼物や製塩の薪炭材等。他に松脂採取、マツタケ山。

## クロマツ

黒松 マツ科マツ属 **網・裂**  
別名オマツ 別称マツ *Pinus thunbergii*



触ると痛い。  
9-15cm



【樹皮】名の通り黒みを帯びる。若木の頃から網目状に裂け、老木では独特の深い亀甲状の裂け目となる。アカマツとの雑種アイグロマツも時に植えられており、葉はクロマツに近いが樹皮は赤みを帯びる個体を見る。【樹形】幹は曲がりやすい。樹高20-30m。【分布】本州~九州の沿海地。海岸防風林、庭木。【利用】材利用はアカマツと同様。

## ニセアカシア

偽アカシア マメ科ハリエンジュ属 **縦・裂**  
別名ハリエンジュ *Robinia pseudoacacia*



葉先はわずかにくぼむ。  
17-25cm



【樹皮】若木はトゲがあるが、すぐになくなり、縦にはっきり裂ける。裂け目はしばしば互いにクロスする感じになる。成木の表面は細かく網目状にひび割れ、多少弾力がある。【樹形】樹高15m前後。【分布】北米原産。公園樹。砂防用に河原や海岸、山地に植えられ広く野生化、問題になっている。【利用】時に工芸品等。花は蜂蜜の蜜源。

## エゴノキ

えごの木 エゴノキ科エゴノキ属 **縦・筋**  
別名チヤマノキ *Styrax japonicus*



鋭い鋸歯がある。  
4-8cm



【樹皮】黒っぽい色が特徴で、林内でも黒さが目立つ。縦に浅い裂け目が入り、成木になるにつれて細かな凹凸となって目立つ。まれに縦に細かくはがれるタイプもある。同属のハクウンボクも黒くて縦すじが入るが、本種より平滑。【樹形】樹高5-12m。【分布】北海道南部~沖縄。雑木林にふつう。庭木。【利用】材は細工物、将棋の駒等。

## 調査した樹木数

樹木名	本数
コナラ	
クヌギ	
ヒノキ	
スギ	
シラカシ	
アカシデ	
アカマツ	
クロマツ	
エゴノキ	
ニセアカシア	
合計	

memo

## 2 稲宮の森の主なる樹木の樹皮

監修 樹木医 古谷孝行

### 樹木を見る時のポイント

- ① 裂け目やすじ、はがれはあるか、どのような様子か？
- ② 樹皮色は何色っぽい？
- ③ 皮目はあるか、どんな形か？

これに加え、指で押さえた時の硬さ、ナイフ等で削った時の匂いや色、樹皮をはいた時のはげ方、地被類のつき方や病害虫の症状などが特徴になることもあるので、注意深く観察してください。

コナラ



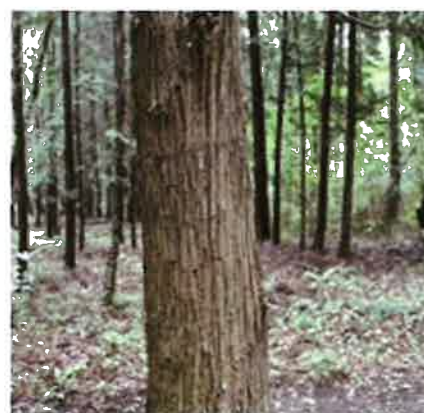
クヌギ



檜



杉



白欒



アカシデ



松



エゴノキ



ニセアカシヤ



## 里山保全 (立枯れ樹木)

### 1 立枯れとなる被害樹木(主な樹種)

コナラ



クヌギ



檜



杉



白欒



アカシデ



松



エゴノキ



ニセアカシヤ



## 2 立枯れの原因となる主な害虫

シロスジカミキリ



シロスジカミキリ（白筋髪切、学名: *Batocera lineolata*）は、コウチュウ目（鞘翅目）カミキリムシ科に分類される甲虫の一種。日本に分布するフトカミキリ亜科の最大種であって、雑木林によく生息する南方系のカミキリムシである。



歯でがじった所に産卵する。



樹皮に傷ができる。



樹木が枯れる。



穴だらけになって弱くなる。



樹木の中が腐ってくる。



傷ついた樹皮に、カブトムシや他の昆虫が樹液を吸いにやってくる。樹皮の被害が拡大する。



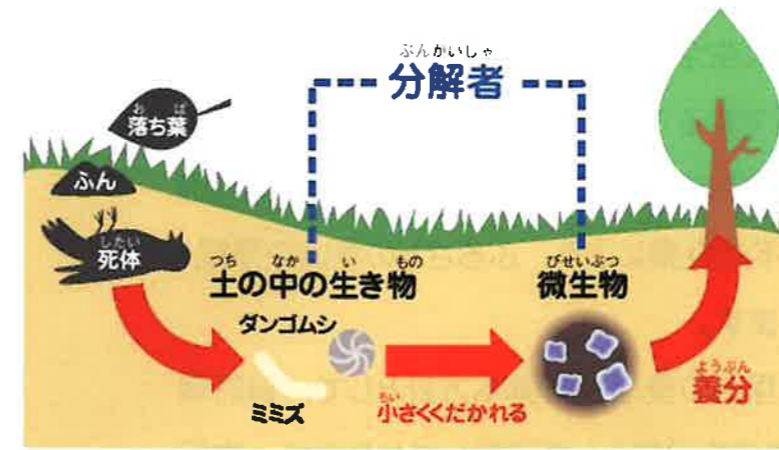
穴を開けて脱出する。



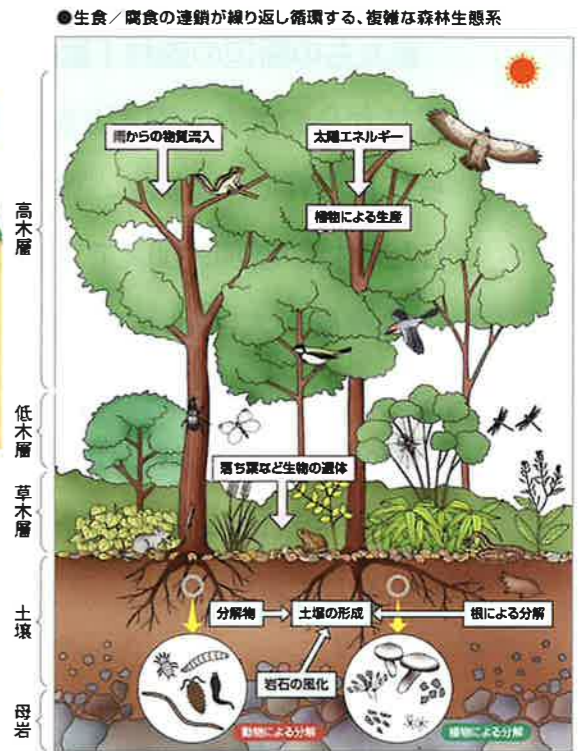
木の中で越冬する。



## 3 里山における害虫の役割



・虫が樹を枯らしたりする行為は、自然の循環作用であり、枯れた樹を菌類が腐食腐朽させ、微生物が土に分解していく、分解された微量元素を植物が栄養として根から吸収する。



よって、里山が健全に育成できるように下刈・間伐を行い、定期的に整備することが必要である。

## 4 外来種などによる里山に影響を与えている害虫



マツマダラカミキリ コウチュウ目、カミキリムシ科  
分布：北海道以外日本全土（北限記録は青森県）  
成虫の体長 18～28mm。マツ類の穿孔性害虫で、松枯れをもたらすマツノザイセンチュウ（北米から侵入）の媒介者として森や庭の松を枯らす。



カシノナガキウイムシ コウチュウ目・ナガキウイムシ科の昆虫である。広葉樹に被害を与える害虫である。成虫の体長は 5mm 程度の円筒状であり、大径木の内部に穿孔して棲息する。穿孔された樹木は急速に衰える。夏場でも葉が真っ赤に枯れることから、景観上の問題となることもある。

監修 樹木医 古谷 孝行  
参考資料 林 将之 著 文一総合出版

NPO 法人こが里山を守る会

私たちの周辺の森林（里山）は、生活環境又は農業経営の変化の中で、森林からの恵みを得ずとも生活できることになったために日常の生活から忘れられてきました。加えて山主の高齢化等により管理放棄され荒廃した森林が増加、加えてゴミの不法投棄により、ふるさとの里山の景観・樹勢環境が大きく損なわれています。

この現状を踏まえ、当会は「里山の復活」を基本方針として、自然環境保全普及啓発ならびに森林整備を目的として活動しております。市民が身近な里山に関心を持って、ふれあいる「景観重視の花山づくり」を目指しております。



お問い合わせ

特定非営利活動法人

こが里山を守る会 事務所

Tel・Fax.0280-78-0795

〒306-0104 茨城県古河市恩名792-1